

令和4年度 江戸川区立南葛西第三小学校 校内研究

1 研究主題

よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成

～テーマ追究の授業づくりを通して～

2 主題設定の理由

(1) これまでの校内研究の取組から

本校では、令和3年度から道徳科の校内研究に取り組み、効果的な発問構成を考えることを通じて、教師の指導力向上を目指してきた。その中で、導入(入口)と展開後段(出口)を同じ発問で構成すると、児童の思考も深まり、道徳性がより育成できるのではないかと考えるようになった。

(2) 児童の実態から

年2回のアンケート調査によると、本校児童は、8割の児童が「道徳の学習が好き」「道徳の学習は自分の生活の役に立つ」と答えている。また、学習活動についても話し合い、タブレット、ワークシートなど、どの方法もほぼ同じ割合で「好き」と答えている。

本校の児童は、基本的な生活習慣が定着していない児童が多く、学習でも目標に向かって努力したり粘り強く取り組んだりする姿勢が弱く、「学びに向かう人間性」など「人間性の向上」はより引き続き課題である。しかし、比較的高い道徳学習への興味関心を指導の要として、道徳性の育成を図っていけば、学習面・生活面においても児童のよりよく生きるための基盤を育成できると考える。

(3) 本校の教育目標から

本校の教育目標の一つに、「豊かな心」がある。本校では、これまでも読書科の推進や、いじめについて考える「ピンクシャツデー」や「いじめ防止授業」、オリ・パラ教育を通じた「障害者理解教育」、原爆や東京大空襲について学ぶ「平和学習」など、特色ある教育活動を推進してきた。

これらの教育活動は人権教育・道徳教育の役割を担っているため、それぞれの活動を連携させたり、日々の授業と関連を図ったりすることで、児童の豊かな心を更に育成し、人間性を向上させることができると考える。

学校教育全体で行う道徳教育の要の役割を果たすのは、「道徳科」である。児童の「人間性の向上」のためには、道徳科を更に充実させることが必要である。

(4) 教師の願いから

令和3年度の校内研究を通して、道徳科の基本的な学習指導法を理解し、教員の指導体制も整ってきた。しかし、よりよい授業を目指す中で「テーマ追究」の授業展開の効果も実感し始めた。また、一人1台のタブレット端末の導入により、意見の共有方法など、今までになかった道徳指導の可能性も見えつつある。

以上4点の理由から、令和4年度は研究主題を「よりよく生きるための基盤となる道徳性の育成」、副主題を「テーマ追究の授業づくりを通して」と設定し、引き続き校内研究を行っていく。

3. 研究構想図

